令和元年度 合同ＩＲ資料

かがやく 浜松市 の未来へ

～持続可能な行財政運営を目指して～

本日の内容

浜松市

1　浜松市のプロフィール
・暮らしやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
・出世の街はままつ・・・・・・・・・・・・・・・ 4
・ものづくりのまち・・・・・・・・・・・・・・・ 5
・豊富な特産品・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
・最近のトピック・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

2　浜松市の未来に向けて
・市民の皆様との約束に基づく市政運営・・・・14
・都市経営方針～浜松市未来ビジョン～・・・・15
・浜松市“やらまいか”人口ビジョン・・・・・16
・浜松市“やらまいか”総合戦略・・・・・・・17
・令和元年度当初予算＜一般会計＞・・・・・・18
【中長期的取組み】
・浜松市中期財政計画・・・・・・・・・・・・・19
・職員数の削減（定員適正化計画）・・・・・・20
・戦略的な資産経営・・・・・・・・・・・・・・21

3　決算から見る浜松市の財政状況
・普通会計決算の状況～歳入・歳出の概要～・・23
・普通会計決算の状況～小さな行政型～・・・・24
・普通会計決算の状況～健全化判断比率～・・・25
・普通会計決算の状況～財政の健全性～・・・・26
・普通会計決算の状況～貸借対照表～・・・・・27
・普通会計決算の状況～行政コスト計算書～・・28
・税収の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・29
・基金残高の状況・・・・・・・・・・・・・・・30
・市債残高の状況・・・・・・・・・・・・・・・31
・公営企業会計決算の状況・・・・・・・・・・32

4　市債発行方針
・市債管理方針・・・・・・・・・・・・・・・・34
・減債基金の積立・・・・・・・・・・・・・・・35
・浜松市の格付け・・・・・・・・・・・・・・・36
・令和元年度市場公募債発行概要・・・・・・・37

※表示単位未満を四捨五入していますので、
内訳と合計や、伸び率等の計算が一致しない
ことがあります

1 浜松市のプロフィール

- 暮らしやすさ
- 出世の街はままつ
- ものづくりのまち
- 豊富な特産品
- 最近のトピック

暮らしやすさ

浜松市

浜松市は「幸福度日本一」の街！

人口：802,728人
（平成31年4月1日現在、住民登録による）

幸福度ランキング１位（政令指定都市20市中）
（全47都道府県幸福度ランキング2018年版（寺島実郎:監修、日本総合研究所:編））

健康寿命１位
（2016大都市別。2010、2013に続き連続１位、厚労省科学研究班）

日本総合研究所が発表する全国20政令指定都市の幸福度ランキングで、
浜松市が2018年(平成30)年に総合ランキング日本一に輝いた。

高い評価の要因
- 全国屈指の財政健全度や合計特殊出生率
- 古くからの製造業の集約による安定的な雇用環境
- 健康寿命日本一などを含む生活環境　など

順位	政令指定都市
1	浜松市
2	さいたま市
3	川崎市
4	京都市
5	名古屋市

◆四方を自然に囲まれた政令指定都市

- 平成17年7月1日の12市町村による大合併、平成19年4月1日に政令指定都市に移行し、平成23年には100周年を迎えた。
- 市域面積は1,558.06K㎡で全国2番目。中心部の都会的な側面だけでなく、雄大な自然をたたえた中山間地域や、遠州灘、浜名湖、天竜川といった豊かな水域がある。

◆仕事とスポーツ・レジャーが近い街

都会と自然が融合する浜松市では、さまざまなライフスタイルを選択可能
- 市街地で都会的な暮らしを楽しむ“アーバンライフ”
- 山間部で自然とふれあいながらゆっくりと暮らす“スローライフ”
- 浜名湖畔でマリンスポーツなどを楽しみながら暮らす“リゾートライフ”

⇒ **ビーチ・マリンスポーツの聖地** ～一流を育む浜名湖・遠州灘～
- 市中心部から30分以内でビーチ・マリンフィールドにアクセスできるため、仕事とビーチ・マリンスポーツの両立が可能
- 全国から一流のプレーヤーが集い、数多くのビーチ・マリンスポーツの大会やイベントが開催されている

出世の街はままつ

浜松市

天下統一の礎を築いた「出世の街はままつ」の歴史

若き日の徳川家康公が天下統一の礎を築き、水野忠邦など歴代城主の多くが幕府の要職へと昇りつめ、近代では世界的な研究者や技術者、音楽家や芸術家を輩出。数多くの偉人を生んだ「出世の街」浜松。浜松の人々が受け継いできた、何事にも諦めずにチャレンジし続ける「やらまいか精神」と伝統文化、そして豊かな自然を未来へとつなげ、浜松はこれからも、芸術、産業、農林水産、スポーツなど、各分野で成長し続ける創造都市をつくっていく。

浜松城

・天守閣は昭和33年に再建されたものだが、石垣は江戸時代の面影を残す歴史的価値の高いもの。
・「野面積み」と呼ばれる見た目には荒々しくも堅固なつくりで、古い石垣の特徴をよく残している。

龍潭寺

・徳川四天王とよばれ、徳川幕府の礎を築いた井伊直政の養母「井伊直虎」ゆかりのお寺
・第二世住職の南渓和尚は直虎を女城主として立てるなど井伊氏再興の立役者
・庭園は国指定名勝

ものづくりのまち

浜松市

やらまいか精神が培う進取の精神

◆輸送用機械器具産業　革新を続ける「基幹産業」の技術

主な企業:ホンダ、スズキ、ヤマハ発動機 など

スズキ：コンパクトSUVコンセプト「e-SURVIVOR」

- 本田宗一郎のホンダにはじまり、スズキ、ヤマハ発動機などオートバイの世界的なブランドが浜松から誕生
- 国際的規模を誇る大手部品メーカーなど輸送機械器具の企業が多数存在
- 100年に一度といわれる自動車産業激変期に対応すべく、産学官が連携して取り組む

◆光・電子技術　ノーベル物理学賞や医療分野にも貢献

主な企業:浜松ホトニクス、パイフォトニクス など

- 1926年、高柳健次郎が世界初のブラウン管映像の実験に成功し、浜松の光・電子の幕開け
- 20世紀後半には浜松ホトニクスが開発した製品が2000年以降のノーベル物理学賞の受賞に幾度も貢献
- 医療分野にも生かされ、世界中の研究者や医師から信頼を得る

【青色LED】世界初の青色LEDの開発に成功
浜松市出身の天野浩名古屋大学教授は
その功績が認められ、ノーベル物理学賞を受賞

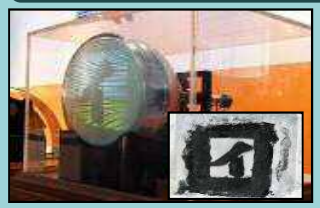
◆楽器産業　日本一の楽器づくりのまち

主な企業:ヤマハ、カワイ、ローランド など

- 製材業と機械産業、そして山葉虎楠と河合小市という二人の天才技術者が浜松の楽器産業を興す礎となり、浜松は「楽器づくりのまち」「音楽の都」として発展
- 現在もヤマハ、カワイ、ローランドの　国内大手楽器メーカーが本社を構え、管楽器、ギター、電子楽器など幅広い楽器を世界に向けて送り出している

日本初の国産ピアノ

浜松からの世界初・日本初

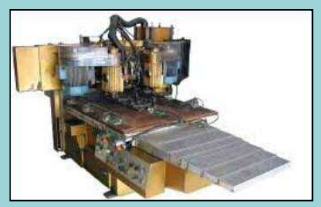


世界初の電子式テレビ実験成功

世界初の胃カメラ

日本初の軽自動車

日本初の国産旅客機



日本初の木工機械

日本初の国産アルミホイール

豊富な特産品

浜松市

豊かな自然環境から生み出される浜松ブランド

◆浜松が誇る代表的な海の幸

浜名湖うなぎ

・地下水、稚魚の採捕、飼料の供給、温暖な気候と養殖の好条件が整う浜名湖は、全国的なうなぎの産地

遠州灘天然トラフグ

遠州灘シラス

浜名湖アサリ

◆浜松が誇る代表的な大地の幸

三ヶ日みかん

・浜松の代表的な果物。糖度が高くコクのある味わいのみかんとして全国に知られている。

ガーベラ

・日照時間の長さと水はけの良い土壌により、日本一の生産量

浜松茶・天竜茶・春野の茶

◆地元に根付いたＢ級グルメ

浜松餃子

・餃子と言えば「浜松市」!!
過去には何度も購入額で日本一に。

・具にキャベツや白菜などの野菜をふんだんに使用
丸く焼いた餃子の真ん中に茹でたもやしを添えるのが1つの特徴

◆広大な山々からの恵み

天竜美林

・浜松市の森林面積は全域の約66%を占める。その中でも北遠の山々は天竜美林と呼ばれ、奈良県の吉野、三重県の尾鷲に並び日本三大人工美林に数えられる。

・FSC森林認証を取得しており、天竜材は東京2020大会でも使用されるなど新たな事業を創出している。

最近のトピック

浜松市

次世代自動車センターの開設

地域中小企業の「固有技術」を活かし、次世代自動車の部品を製造することで、新たなビジネス展開ができるように、開発・設計から製造・販売までをワンストップで支援

設立記念講演会（2018年4月23日）

最近のトピック

浜松市

日本一の起業家応援都市 浜松

浜松市では、企業を総合的に支援する「はままつ起業家カフェ」を窓口に創業者向け融資制度や人材育成、ビジネスマッチングやビジネスプラン支援など、産学官金によるスタートアップ支援体制を用意

◆サテライトオフィスの整備

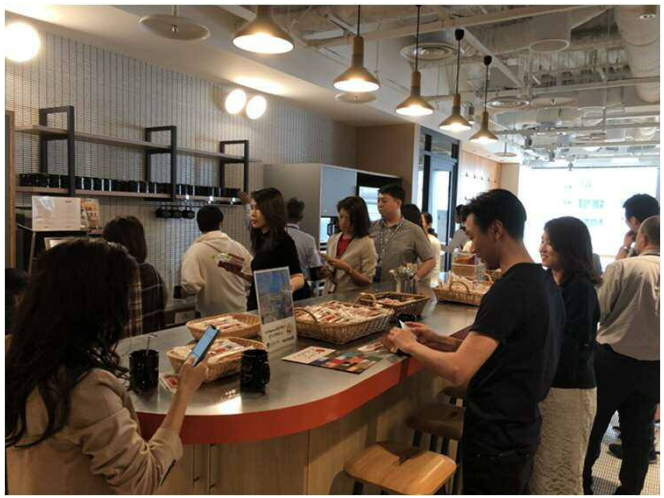
はままつトライアルオフィス

■場　　所　ザザシティ浜松
　　中央館　4階
■利用時間　10:00～20:00
■利用料金　無料
■座 席 数　最大30席（約69㎡）

舞阪サテライトオフィス

■場　　所　舞阪協働センター　4階
　　※JR弁天島駅　徒歩8分
■部 屋 数　事務室6室（約30～50㎡）
　　共有スペース1室
■利用時間　24時間利用可

◆WeWorkを活用した企業誘致活動



WeWork丸の内北口オフィス

■場　　所　東京都千代田区
　　丸の内北口ビルディング10F
■事業内容
プライベートオフィス(2席部屋)に入居し
コミュニティ内で次の活動を実施
①ネットワーク構築(企業面談による情報収集)
②イベント開催(本市事業PR、市内企業PR)
③ビジネスマッチング
(首都圏企業と市内企業を繋ぐ誘致活動)

最近のトピック

浜松市

企業誘致　新・産業集積エリア整備事業　～ 第三都田地区工場用地 ～

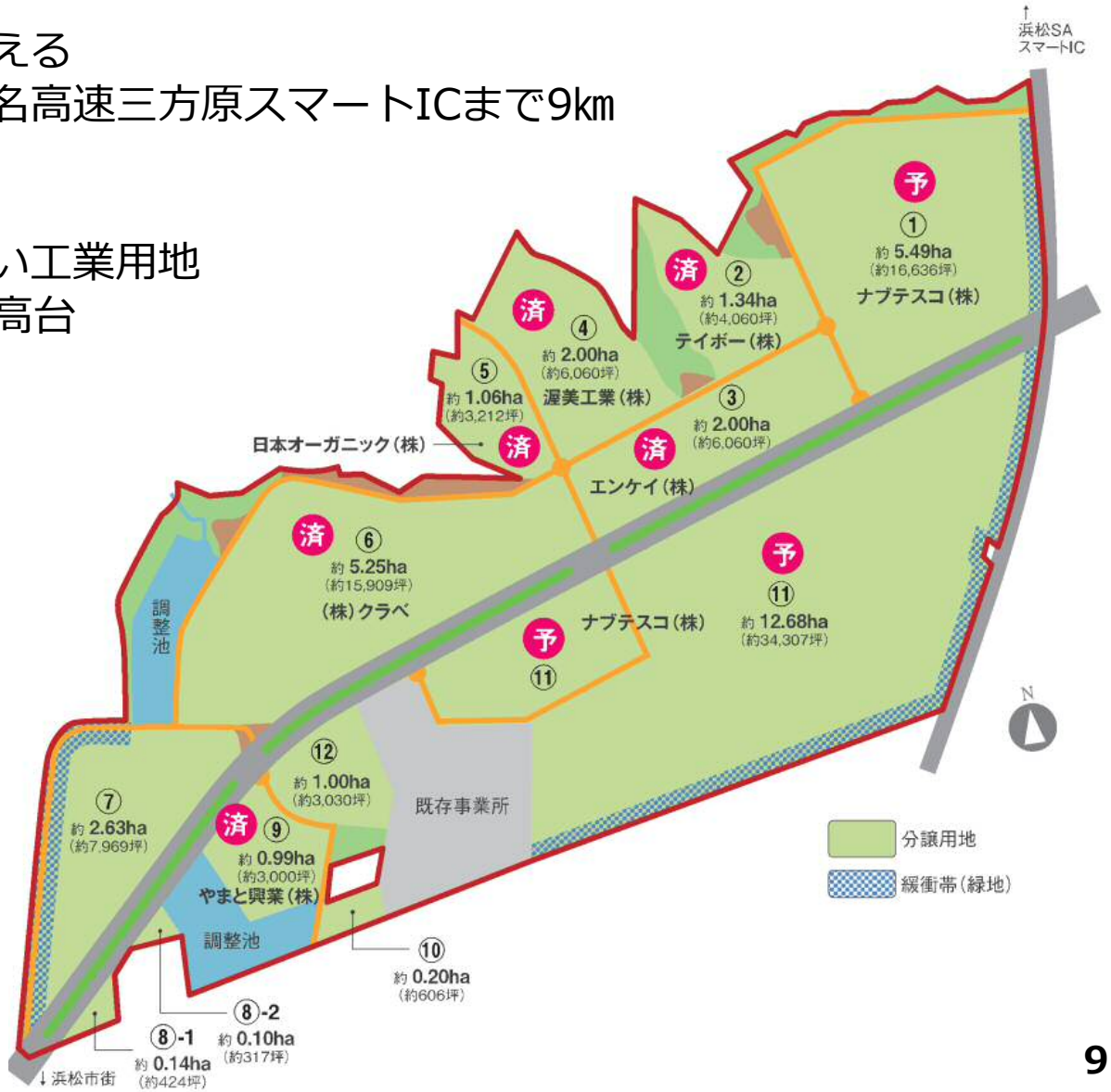
◆新東名高速道路、東名高速道路を近隣に備える
新東名高速浜松SAスマートICまで2km、東名高速三方原スマートICまで9km

◆約80社の企業が集積する地域に近隣

◆三方原台地の強固な地盤を備えた災害に強い工業用地
沿岸部より約20kmの内陸、標高約100mの高台

■スケジュール（予定）

年度	H28/2016	H29/2017	H30/2018	H31/R1 2019	R2/2020	R3/2021
設計・造成			造成工事			換地処分等
用地分譲		分譲				
				用地引渡し		
インフラ	下水道整備					
	都市計画道路整備					



最近のトピック

浜松市

防潮堤の整備 ～ 沿岸地域防潮堤整備事業 ～

◆地元企業の一条工務店グループは、静岡県に対し
浜松市沿岸部の防潮堤整備の費用として300億円を寄附
・県は防潮堤整備工事、市は工事に必要な土砂を確保

◆標高13mの築堤の完成延長 L＝12.6km（R1.5.16現在）
・全延長約17.5kmの全区間において工事に着手

◆完成目標 令和2年3月

【CSG(Cemented Sand Gravel)工法】
・地震、津波に対して安定した構造
・覆土により海岸防災林の再生が可能

⇒ **先進事例「浜松モデル」として全国に発信**

最近のトピック

スポーツ施設の整備など

◆東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
ホストタウンの取り組み
・ブラジルを対象としたホストタウン登録
・共生社会ホストタウン登録

ブラジルパラリンピック委員会との
事前合宿に関する協定書締結（2018年7月）

◆**ビーチ・マリンスポーツの聖地**

ビーチスポーツ施設の整備
2019年8月、国際大会開催を視野にいれた
「遠州灘海浜公園江之島ビーチコート」を新設

・ビーチバレーやビーチテニス、
ビーチサッカーなどで利用可能
・浜名湖、遠州灘では、サーフィン、
スキムボート、ビッグフィッシングなど
多様なマリンスポーツ楽しめる

最近のトピック

浜松市

浜松市 SDGs 未来都市計画

～ 浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」～

地域資源活用で「経済・社会・環境」の
好循環モデルを浜松で創出・発信

タイトルは、郷土の偉人金原明善翁を紹介した平成30年1月の安倍首相施政方針演説の一節をもとに設定

課題解決のため浜松市が取り組む主なSDGs事業

- ◆森林　林業の成長産業化など
- ◆エネルギー　浜松版スマートシティ実現など
- ◆多文化共生　外国人の子ども教育支援など

2 浜松市の未来に向けて

- 市民の皆様との約束に基づく市政運営
- 都市経営方針～浜松市未来ビジョン～
- 浜松市“やらまいか”人口ビジョン
- 浜松市“やらまいか”総合戦略
- 令和元年度当初予算＜一般会計＞
- 【中長期的取組み】
  浜松市中期財政計画　など

市民の皆様との約束に基づく市政運営

浜松市

第4期(R1-R4)

平成31年4月～市長4期目、3期12年にわたる
「やすとも市政の集大成」と位置づけ

行財政改革で生まれた
おカネを明日の市政に積極的に活用

３つの”活用”

◇子どもたちの明るい未来に”活用”

全小・中学校の教室にエアコン設置、高校生医療費助成 など

◇増大する社会保障費に”活用”

福祉や健康・医療の充実 など

◇突然の災害対応に “活用”

古くなった橋・道路の整備、山崩れなどの土砂災害 など

第3回ﾏﾆﾌｪｽﾄ大賞
首長ｸﾞﾗﾝﾌﾟﾘ受賞

第1期(H19-H22)

①『こども第一主義』
・子育て世代を全力で応援
・地域一体の教育で浜松の未来を創造

②『くらし満足度向上』
・住みやすさナンバーワンの「ひとつの浜松」
・安全安心の医療と介護

③『行財政改革の推進』
・スピードのある行財政改革で必要な財源を捻出
・市長みずからが先頭に立つ

第3期(H27-H30)

①『やります！次世代にツナグ』
・魅力ある「創造都市・浜松」をつくる　・安全で安心なまちづくり
・豊かな自然環境を後世に残す　・足腰の強い財政基盤づくり

②『やります！世界とツナグ』
・音楽を機軸とした創造的な文化や産業の振興　・戦略的なシティプロモーションの展開
・農作物をはじめとした特産品の海外への積極的な販路拡大

③『やります！人をツナグ』
・企業等の人材が学校教育等に参画する仕組みづくり　・地域の見守り体制の拡充
・都市部と中山間地域の市内間交流　・地域活動の活発化や担い手となる人材の育成

第2期(H23-H26)

①『やります！人財(ひと)づくり』
・創造性あふれる市民が集い主体的に行動
・浜松の未来の担い手となる人材の育成

②『やります！産業(もの)づくり』
・イノベーションに果敢に挑戦
・新たな技術や人材、産業の創出を支援

③『やります！文化(こと)づくり』
・多様な文化芸術を基盤とした人材の交流
・市民が主体となって文化を創造・発展

都市経営方針～浜松市未来ビジョン～

浜松市

浜松市未来ビジョン(30年後)

＜都市の将来像＞
市民協働で築く　『未来へかがやく創造都市・浜松』

【創造都市】
技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ
【市民協働】
小さな歯車が重なって大きな“こと”を動かす
【ひとづくり】
新しさを生む伝統を未来へつなぐ

浜松市未来ビジョン第1次推進プラン(10年後)

■　都市経営の考え方
- 市民協働で高める地域力
- 未来まで続く持続可能なまち
- 未知の感動を生み出す創造都市
- 想定外にも対応できる自立・自律したまち
- 世界とツナグ・地域とツナグ

■　分野別計画
- 産業経済
- 子育て・教育
- 安全・安心・快適
- 環境・エネルギー
- 健康・福祉
- 文化・生涯学習
- 地方自治・都市経営

毎年策定

浜松市戦略計画

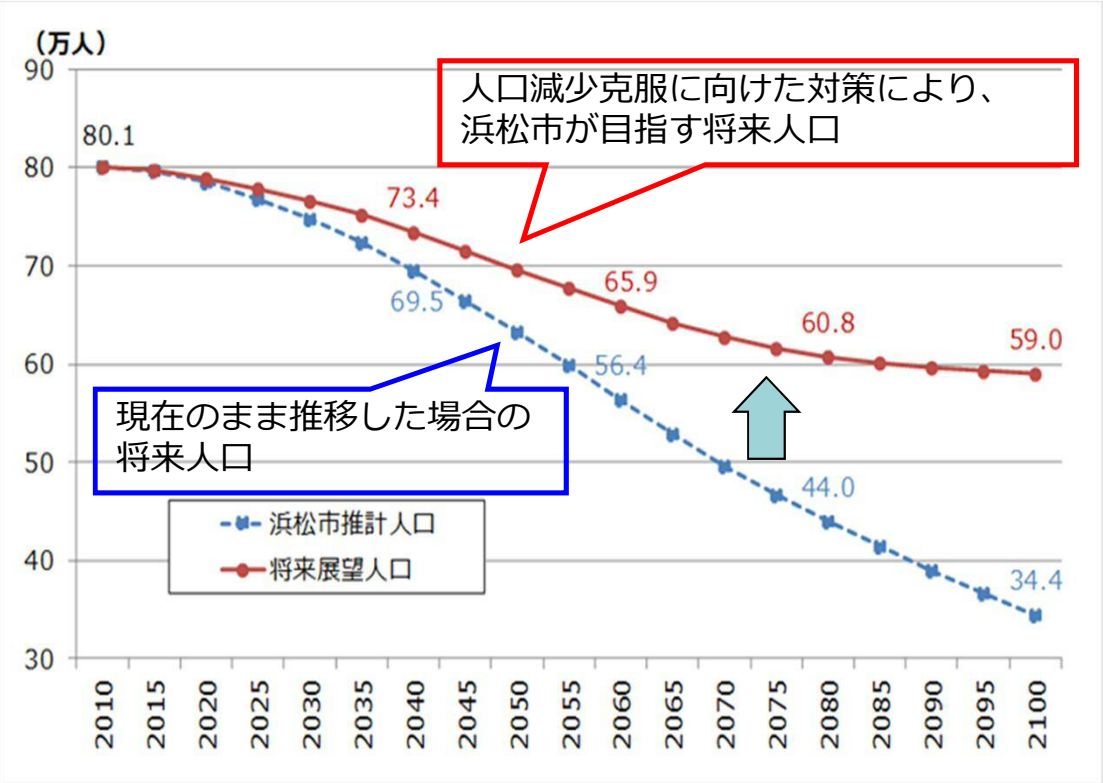
浜松市“やらまいか”人口ビジョン

浜松市

＜目標＞

合計特殊出生率：2025年までに1.84、2035年までに2.07

社会移動　　：2020年までに東京圏との社会移動を均衡させる



○浜松市が目指す将来の人口(将来人口展望)

2040年:73.4万人

2060年:65.9万人

○現在の出生率、稼働率などが
このまま続いた場合

2040年:69.5万人

2060年:56.4万人

＜人口減少を抑え、長期的な人口構成の最適化に向けた方針＞

・若者、子育て世代の生活基盤の安定

・希望出生数をかなえる環境整備

・だれもが引き寄せられる都市の魅力を創出

浜松市“やらまいか”総合戦略

浜松市

人口減少を抑え、長期的な人口構成の最適化を図るための3つの基本目標

Ⅰ　若者がチャレンジできるまち

- 満足のいく雇用機会に恵まれていると思う人の割合　26.0%　→　30.0%
- 市内総生産額　2.97兆円　→　3.3兆円以上

Ⅱ　子育て世代を全力で応援するまち

- 合計特殊出生率　1.47　→　1.84
- 子どもを生み育てやすい環境が整っていると思う人の割合　23.4%　→　50.0%

Ⅲ　持続可能で創造性あふれるまち

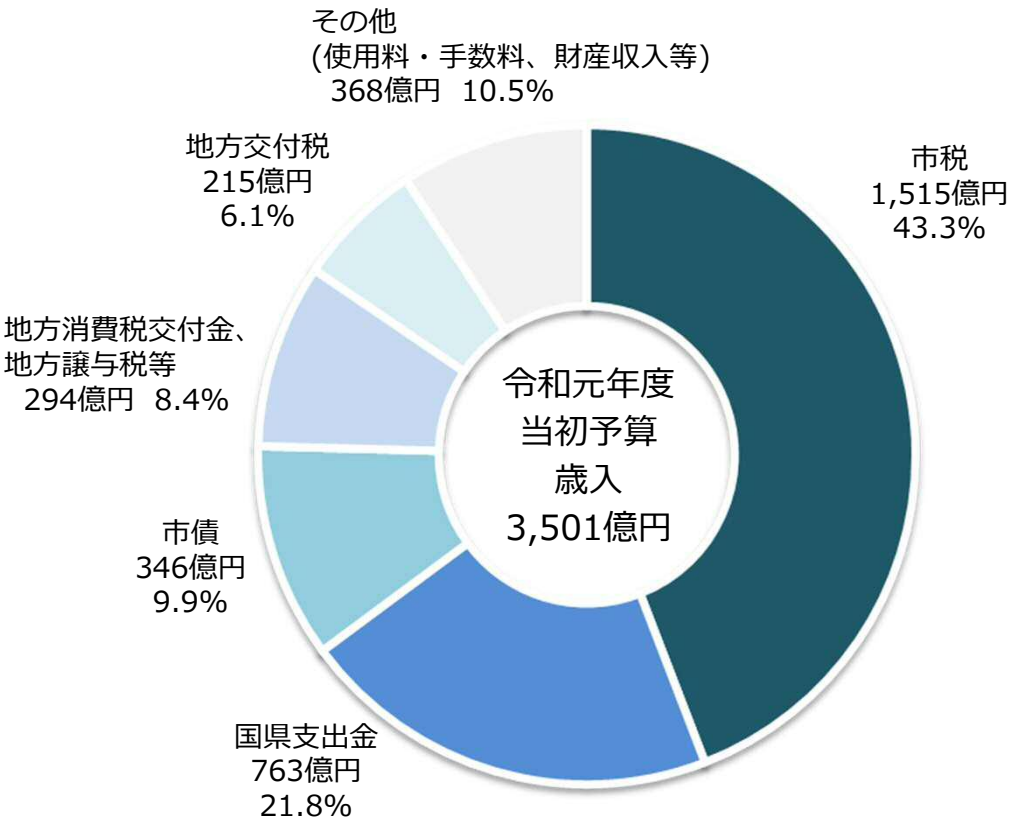
- 住んでいる地域が住みやすいと思う人の割合　58.9%　→　65.0%
- 健康寿命　男72.98歳、女75.94歳　→　男73.98歳、女76.94歳

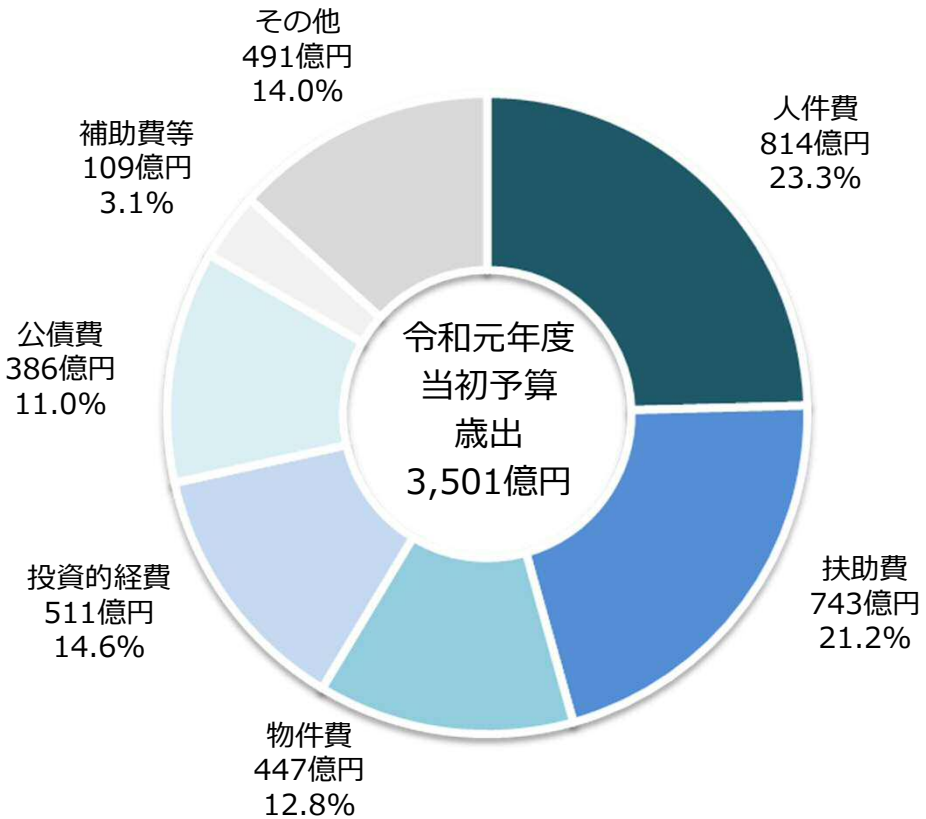
☆浜松市の地方創生のキーワード“やらまいか精神”

令和元年度当初予算＜一般会計＞

浜松市

一般会計　3,501億円（前年度比215億円の増）





都市の将来像である「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」、未来の理想の姿「1ダースの未来」の実現に向け、長期的な視野に立ち、総合戦略に掲げた諸施策を着実に推進

浜松市中期財政計画

浜松市

人口減少下における中長期的な財政運営指針

■ 計画期間　　平成27年度～令和6年度（10年間）

■ 目標値

①一人あたり市債残高

令和6年度末までに55万円／人以下とする

②補足目標

ア　実質公債費比率（フロー指標）

類似政令指定都市（※）平均を下回る

イ　将来負担比率（ストック指標）

実質0%近傍を維持

○中長期的な財政運営指針となる中期財政計画の必要性

・人口減少下においてこそ、中長期的な視点からの財政の健全化を意識して財政運営を行うことが重要

・30年先の将来を念頭に総合的な施策を定めた浜松市総合計画基本計画と同じ10年間を対象期間として中期財政計画を策定し、一人あたり市債残高の縮減を主たる目標とする

※類似都市とは、平成13年度以降に合併を行い政令指定都市に移行した8都市を指す

⇒さいたま市、静岡市、堺市、浜松市、新潟市、岡山市、相模原市、熊本市

職員数の削減（定員適正化計画）

浜松市

■ 計画期間　平成28年4月1日～令和2年4月1日

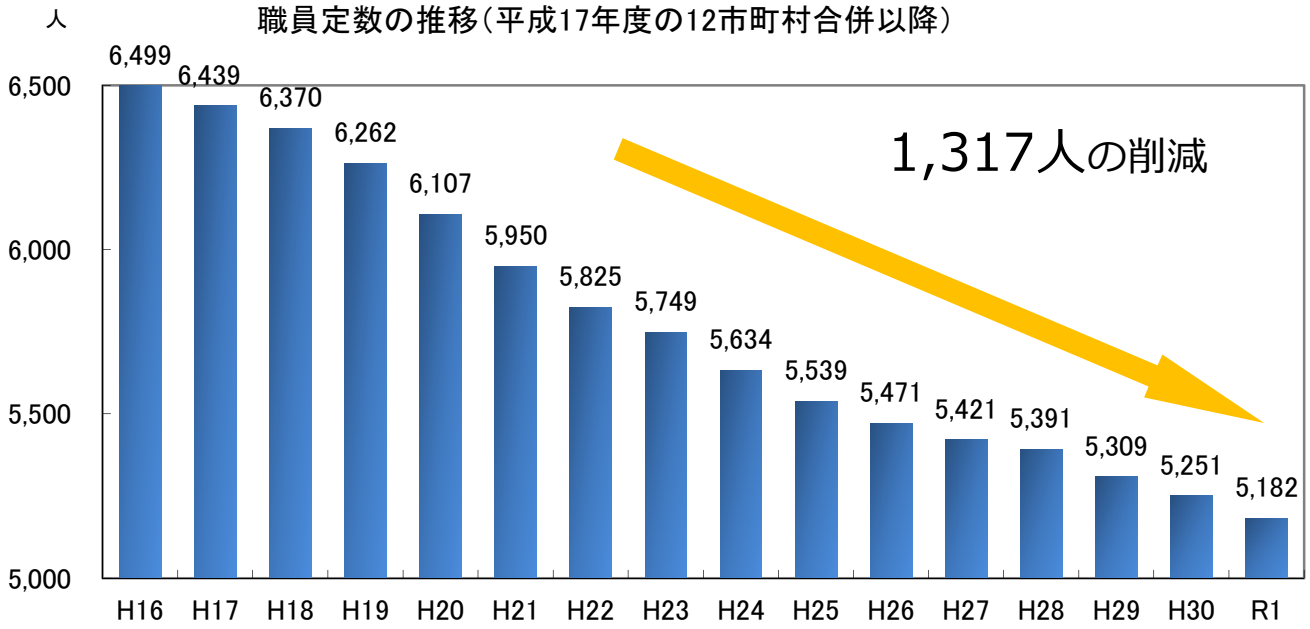
■ 目　　標　330人の削減

事務事業の見直しなどにより408人削減。新たな行政需要などに対応するため78人増員

・2期(H18～H22、H23～H27)にわたる定員適正化計画の推進により、平成27年4月までに職員定数を1,078人削減

・新たな定員適正化計画を策定し、更なる削減を継続中（平成31年4月現在で1,317人を削減）

・市民1人あたりの人件費は、政令指定都市の中で6番目に低い



※職員定数は年度当初（4月1日）のもの
※旧県費負担教職員は除く

市民1人あたりの人件費

（単位：千円）

都市名	人件費/人口	順位
大阪市	72.3	1
札幌市	83.5	2
福岡市	88.5	3
横浜市	93.3	4
さいたま市	93.7	5
浜松市	96.9	6
政令市平均	101.8	

H29年度普通会計決算より
住民基本台帳のH29年度末人口による

戦略的な資産経営

浜松市

資産経営推進方針(平成21年度～)

・「財産管理」から脱し、コスト意識・経営感覚を伴った戦略的な「資産経営」にいち早く移行
・第6回日本ﾌｧｼﾘﾃｨﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ大賞最優秀賞受賞(H23.2月)

■施設の削減状況

439施設（約22万㎡）を削減(平成21～27年度)
⇒　年間維持管理経費　△約5億円
⇒　50年間の更新・改修経費　△約1,100億円

公共施設等総合管理計画(平成28年3月)

従来からのハコモノ資産の取り組みに加え、道路・橋りょうなどインフラ資産も含め包括的な資産経営

■基本的事項

資産の見直しや活用、運営管理、処分などに関するプロセス全般を資産経営と位置付け、長期的かつ着実に推進するための羅針盤として策定

■計画期間　平成27年度～令和6年度（10年間）

■資産経営の基本的理念

「　知　る・変える・活かす　」で支える都市経営

知　る……資産の状況をしっかり「知る」
変える……従来の考え方にとらわれず「変える」
活かす……創意工夫により資産を最大限「活かす」

■6つの基本方針

・公共施設に関するムリ・ムダ・ムラの是正
・安全・安心な公共施設の提供
・公共施設の最大限の有効活用
・民間活力の積極的な活用
・まちづくりとの連携及び近隣市町等との連携
・実効ある進捗管理

■マネジメントの手法

【ハコモノ資産】
所管課とアセットマネジメント推進課を主とする関係課が「施設カルテ」を共有し、中長期的な総量縮減・民間活力の活用などの視点を持ちつつＰＤＣＡサイクルの実行

【インフラ資産】
ＲＢＭ（リスクベース・メンテナンス）を踏まえた長寿命化計画などを基本に、メンテナンスサイクル（点検⇒診断⇒措置⇒記録）を実行することで、実態に即した予防保全を推進

3 決算から見る浜松市の財政状況

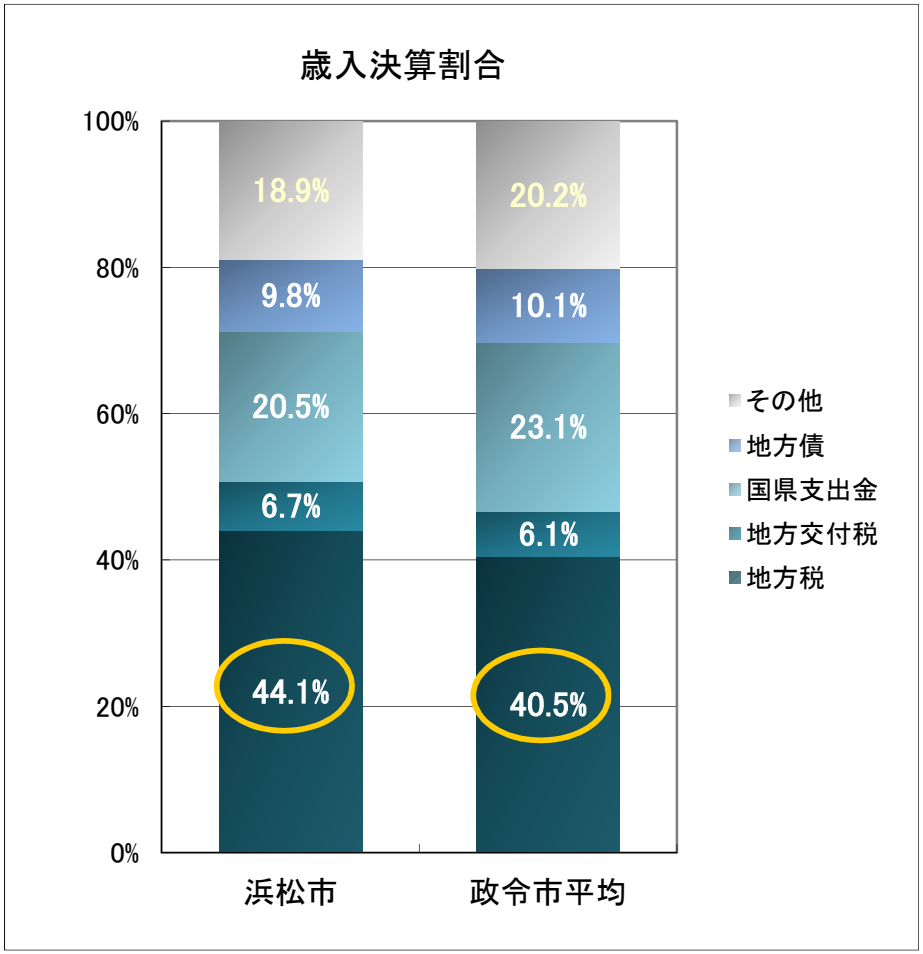
- 普通会計決算の状況
- 税収の確保
- 基金残高の状況
- 市債残高の状況
- 公営企業会計決算の状況

普通会計決算の状況～歳入・歳出の概要～

浜松市

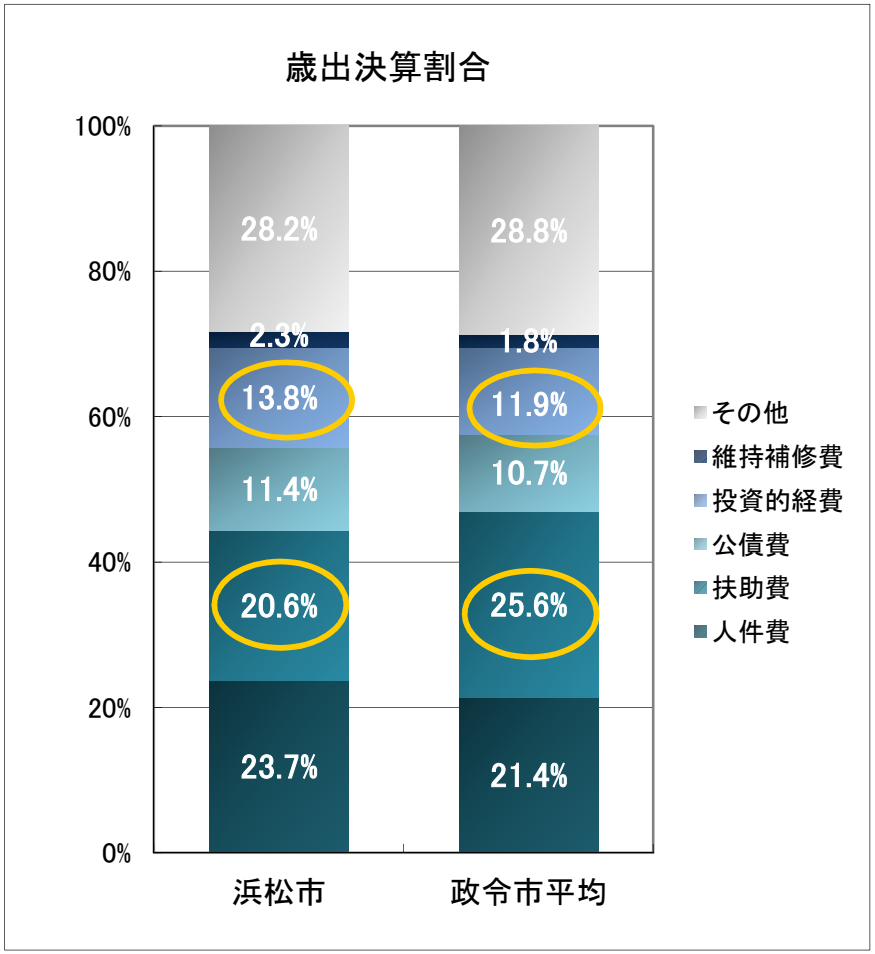
＜30年度歳入決算額＞3,389億円

●高い地方税割合(対政令市平均+3.6%)



＜30年度歳出決算額＞3,286億円

●低い扶助費割合(対政令市平均△5.0%)
●高い投資的経費割合(対政令市平均+1.9%)



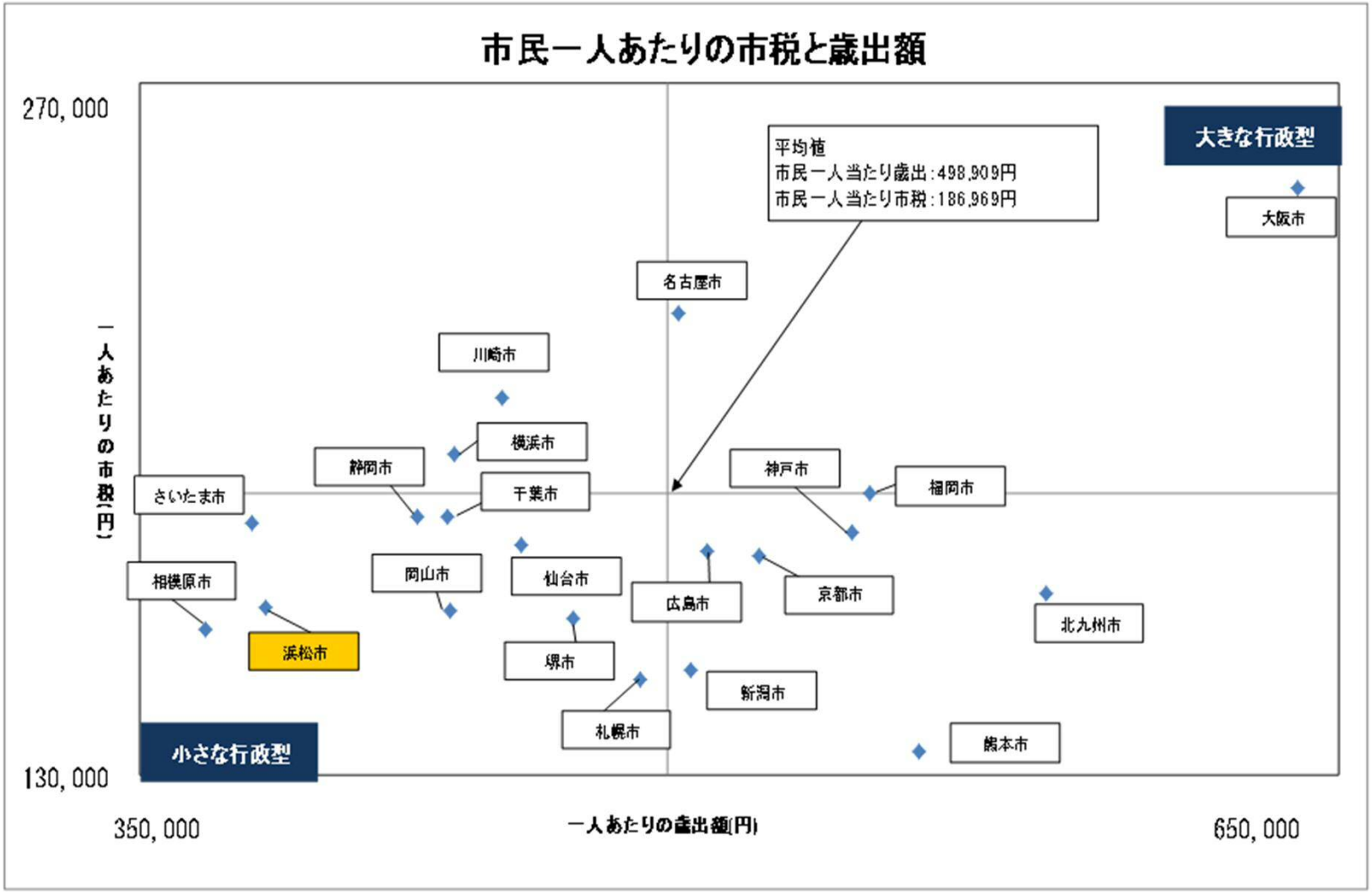
※平成30年度決算　政令市平均は平成30年度決算速報値の単純平均

普通会計決算の状況～小さな行政型～

浜松市

たゆまぬ行財政改革の結果、低コスト体質を実現

・市民一人あたりの市税は政令指定都市平均を下回る
・市民一人あたりの歳出額は政令指定都市の中で3番目に少ない



【市民1人あたり歳出額】

	市名	千円
1	相模原市	395
2	さいたま市	405
3	浜松市	408
4	静岡市	443
5	千葉市	449
6	岡山市	450
7	横浜市	451
8	川崎市	462
9	仙台市	466
10	堺市	478
11	札幌市	493
12	名古屋市	501
13	新潟市	504
13	広島市	508
15	京都市	519
16	神戸市	540
17	福岡市	544
18	熊本市	555
19	北九州市	584
20	大阪市	641
	単純平均	490

平成29年度普通会計決算より
人口は年度末人口
表中の太線は単純平均分岐線

普通会計決算の状況～健全化判断比率～

浜松市

財政状況の健全性は、政令指定都市の中でトップ水準

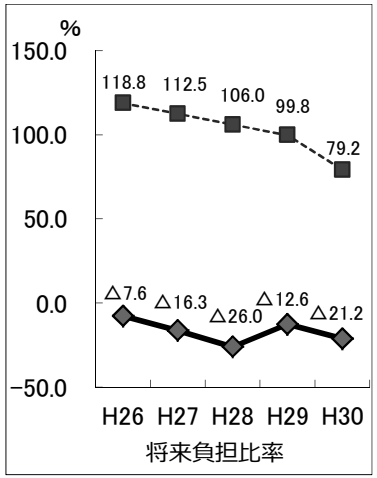
（単位：%）

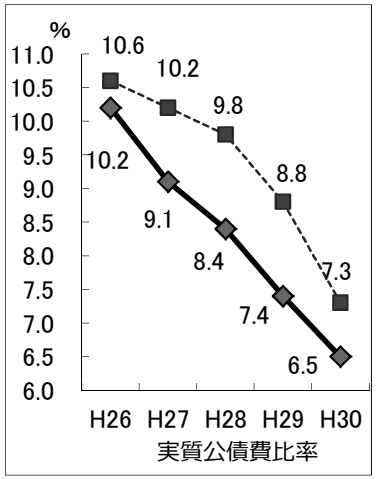
項　目	30年度 A	29年度 B	増減 A-B	早期健全化基準
実質赤字比率	黒字	黒字	－	11.25
連結実質赤字比率	黒字	黒字	－	16.25
実質公債費比率	6.5	7.4	△ 0.9	25.0
将来負担比率	－（△21.2）	－（△12.6）	－（△8.6）	400.0

※将来負担比率は、充当可能財源等が将来負担額を上回るため「-」と表示
参考に（ ）内に上回る額の比率をマイナス（△）で表示

- 早期健全化基準より大幅に低い健全な財政運営を維持
- 将来負担比率は、政令指定都市で最良値
- 実質公債費比率はほぼ平均 ⇒ 償還期間を前倒しした市債借入
  - 原則、縁故債10年償還（借換なし）
  - 市場公募債10年償還（借換1回）、減債基金積立1/20以上

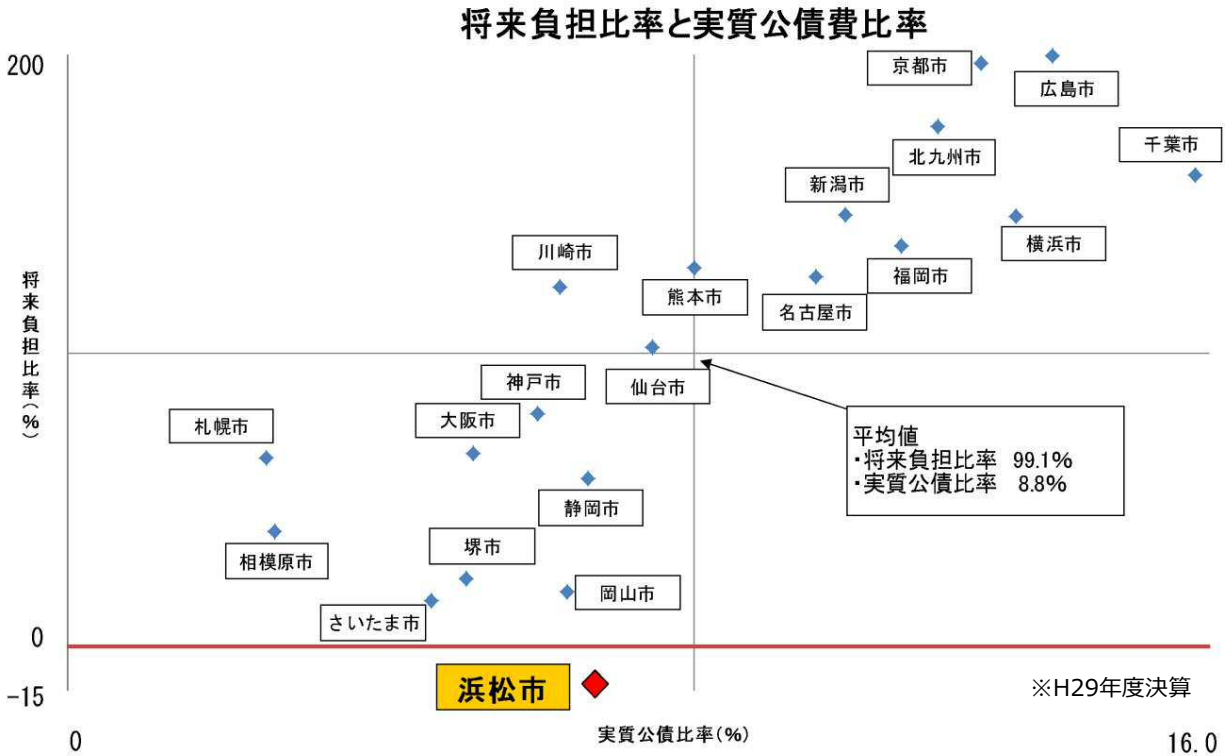
⇒ 実質公債費比率は高くなるが、将来負担比率が良好に





浜松市 ・・■・・ 政令市平均

※H30政令市平均はH30決算速報値の単純平均



※H29年度決算

普通会計決算の状況～財政の健全性～

浜松市

財政状況の健全性は、政令指定都市の中でトップ水準

※表中の太線は単純平均分岐線

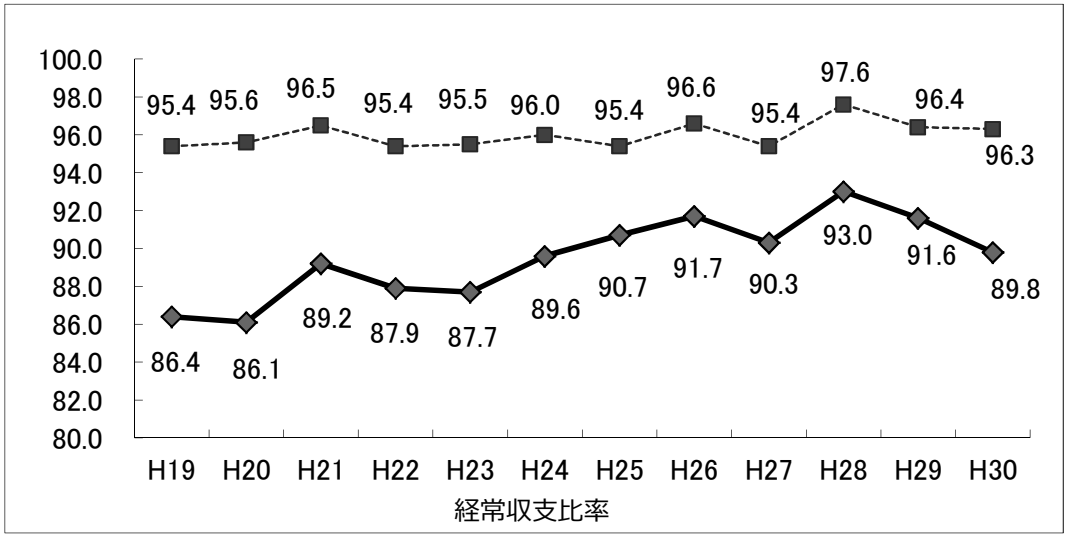
順位	生活保護率		ラスパイレス指数		経常収支比率	
1	浜松市	0.92	大阪市	96.9	岡山市	89.3
2	静岡市	1.31	新潟市	98.6	浜松市	91.6
3	新潟市	1.49	相模原市	99.5	熊本市	92.2
4	さいたま市	1.57	名古屋市	99.6	新潟市	92.4
5	仙台市	1.66	札幌市	99.9	福岡市	92.5
6	岡山市	1.87	浜松市	100.0	札幌市	93.6
7	横浜市	1.89	堺市	100.0	静岡市	94.0
8	相模原市	1.94	広島市	100.1	千葉市	96.9
9	名古屋市	2.10	横浜市	100.5	さいたま市	97.5
10	川崎市	2.10	熊本市	100.5	堺市	97.7
11	千葉市	2.13	神戸市	100.8	横浜市	97.9
12	広島市	2.13	岡山市	100.9	広島市	98.2
13	熊本市	2.15	千葉市	101.3	大阪市	98.3
14	北九州市	2.47	川崎市	101.3	京都市	98.4
15	福岡市	2.79	さいたま市	102.2	相模原市	98.4
16	京都市	3.03	福岡市	102.2	仙台市	98.5
17	神戸市	3.06	京都市	102.5	名古屋市	99.2
18	堺市	3.10	仙台市	102.7	神戸市	99.4
19	札幌市	3.73	北九州市	102.7	北九州市	99.4
20	大阪市	5.24	静岡市	103.0	川崎市	100.5
	単純平均	2.33	単純平均	100.8	単純平均	96.3

※出典：政府統計の総合窓口（平成29年度被保護者調査）
※生活保護率（人口百対）

※国家公務員を100とした場合の地方公務員の給与水準
※出典：平成30年地方公務員給与実態調査結果（総務省）

※29年度決算

- 生活保護率の低さは政令指定都市第1位
- ラスパイレス指数、経常収支比率は上位
- 経常収支比率は、前年度より1.8ポイント改善



※H30政令市平均はH30決算速報値の単純平均

普通会計決算の状況～貸借対照表～

浜松市

将来世代負担率が低い持続可能な財政運営

・資産に対する純資産：負債の割合＝7：3
・類似指定都市と比較（平成29年度）すると・・・

・市民一人あたりの負債額　少ない
・純資産比率　高い
・将来負担比率　低い

普通会計　　平成31年3月31日現在

資産　1兆4,104億円		負債　3,541億円	
将来の世代に引継ぐ社会資本		将来の世代の負担となる債務	
1　固定資産	1兆3,813億円	1　固定負債	3,080億円
（1）有形固定資産	1兆2,909億円	（1）地方債	2,415億円
①事業用資産	6,384億円	（2）長期未払金	－　億円
②インフラ資産	6,448億円	（3）引当金	663億円
③物品	77億円	（4）その他	2億円
（2）無形固定資産	18億円	2　流動負債	461億円
（3）投資その他の資産	886億円	（1）1年以内償還地方債	389億円
		（2）未払金	0億円
		（3）引当金	59億円
		（4）その他	13億円
債務返済の財源等		純資産　1兆563億円	
2　流動資産	291億円		
（1）現金預金	113億円	これまでの世代の負担	
（2）基金	163億円		
（3）その他	15億円		

市民一人あたりの貸借対照表

資産　175.7万円	負債　44.1万円 （うち、市債34.9万円）
	純資産　131.6万円

①市民一人あたり資産額

項目		30年度	29年度	29類似都市平均
人口	（人）	802,728	804,989	－
資産	（億円）	14,104	14,006	－
市民一人あたりの資産	（万円）	176	174	182

②市民一人あたり負債額

項目		30年度	29年度	29類似都市平均
人口	（人）	802,728	804,989	－
負債	（億円）	3,541	3,582	－
市民一人あたりの負債	（万円）	44	45	63

③純資産比率

項目		30年度	29年度	29類似都市平均
資産	A(億円)	14,104	14,006	－
純資産	B(億円)	10,563	10,424	－
純資産比率	B/A	74.9%	74.4%	61.1%

④社会資本等形成の世代間負担比率

項目		30年度	29年度	29類似都市平均
固定資産総額	A(億円)	13,813	13,736	－
地方債残高＋未払金	B(億円)	1,330	1,450	－
将来世代負担比率	B/A	9.6%	10.6%	19.7%

普通会計決算の状況～行政コスト計算書～

浜松市

財政運営の見直しによる効率的な行政サービスの提供

普通会計　　自　平成30年4月1日　至　平成31年3月31日

費用　2,974億円		収益　193億円	
1　経常費用	2,943億円	1　経常収益	165億円
(1) 業務費用	1,754億円	(1) 使用料及び手数料	53億円
①人件費	817億円	(2) その他	112億円
②物件費等	900億円	2　臨時利益	28億円
③その他の業務費用	37億円	純行政コスト　2,781億円	
(2) 移転費用	1,189億円	市税などの一般財源や国県補助金などを充当	
①補助金等	372億円		
②社会保障給付	642億円		
③他会計への繰出金	160億円		
④その他	15億円		
2　臨時損失	31億円		

市民一人あたりの行政コスト計算書

費用　37.0万円	収益　2.4万円
	純行政コスト　34.6万円

類似指定都市と比較（平成29年度）すると・・・

・市民一人あたりの行政コストは低い
　⇒職員数の削減や補助金の見直しなどによりコストを抑え、効率的な行政サービスを提供

・適正な受益者負担割合
　⇒使用料は、利用者間の公平性の観点などから3年に１度の全庁的な見直し
　⇒手数料は、実績に基づくコスト計算から毎年度見直し

①市民一人あたり行政コスト

項目		30年度	29年度	29類似都市平均
人口	（人）	802,728	804,989	－
純行政コスト	（億円）	2,781	3,158	－
市民一人あたりの行政コスト	（万円）	35	39	42

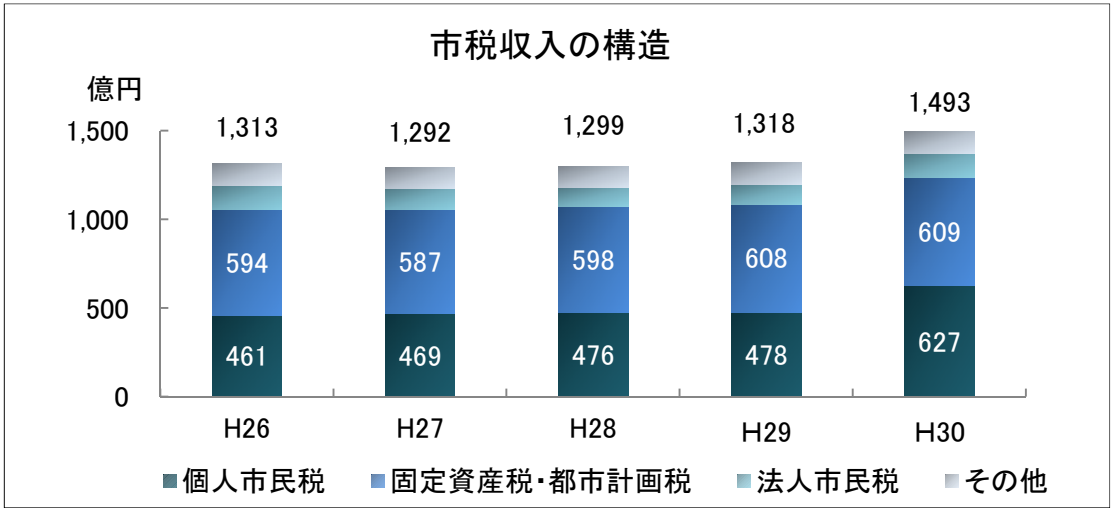
②受益者負担割合

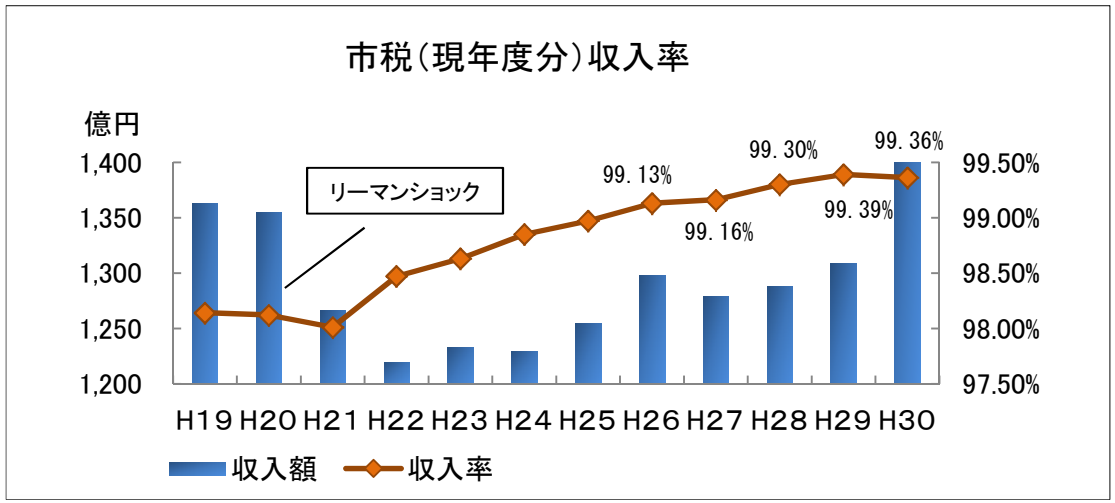
項目		30年度	29年度	29類似都市平均
経常費用	A(億円)	2,943	3,254	－
経常収益	B(億円)	165	138	－
受益者負担の割合	B/A	5.6%	4.2%	3.9%

税収の確保

浜松市

収入率の向上と滞納額の削減





安定した税収構造

平成30年度市税収入1,493億円

（前年度比175億円増）

- 個人市民税は、県費負担教職員の権限移譲に伴う税源移譲などにより 前年度比148億円増
- 法人市民税は、企業収益の改善などにより前年度比26億円増

「第4次市税滞納削減アクションプラン」

（平成28年度策定）

- 口座振替の促進やコンビニ納付の拡大
- 特別徴収事業所の指定の徹底と適正な管理
- 現年分滞納整理の早期着手の強化　など

平成30年度現年課税分収入率：*99.36%*

※目標値：99.24%を達成

（具体的な取組みによる実績）

- コンビニ対応による納付機会の拡大

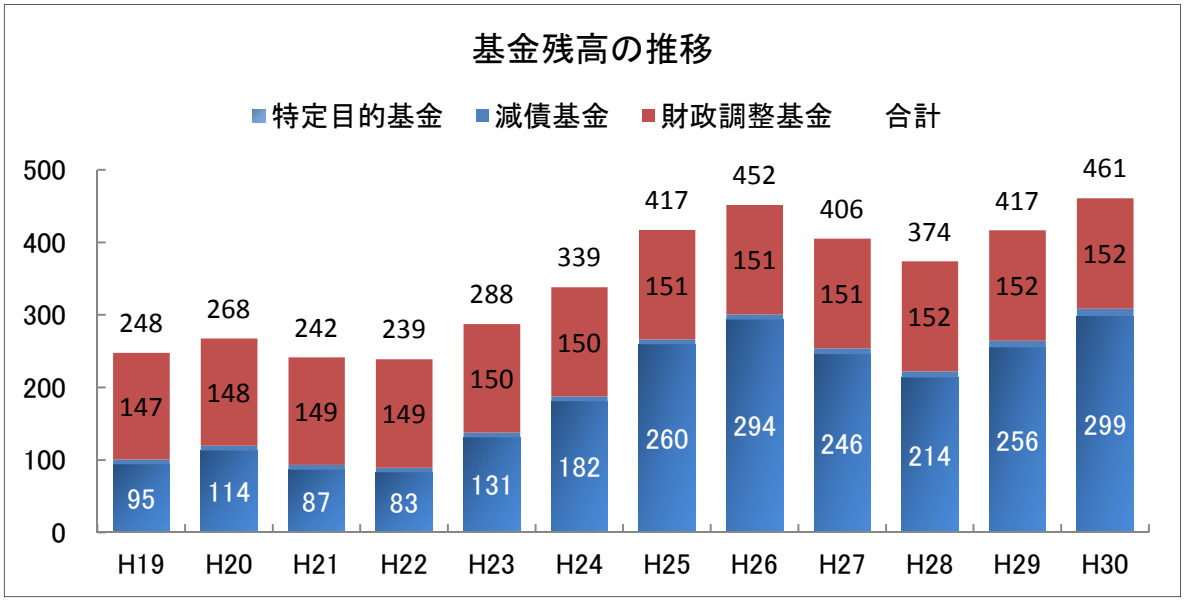
  コンビニ納付件数 473,281件

  （前年度比 22,279件増）

基金残高の状況

浜松市

基金残高　461億円（前年度比44億円増）



（単位：億円）

区分	H29 年度末残高 A	H30 積立金 B	H30 取崩 C	H30 年度末残高 A+B−C
1 財政調整基金	152	0	−	152
2 減債基金	10	1	−	10
3 特定目的基金	256	91	48	299
資産管理基金	82	4	5	80
一般廃棄物処理施設整備事業基金	46	40	−	86
商工業振興施設整備基金	8	35	−	43
津波対策事業基金	36	0	18	18
その他	85	12	24	72
合計	417	92	48	461

※減債基金の平成30年度末の残高は245億円だが、満期一括償還積立金分を除いた場合の残高は10億円

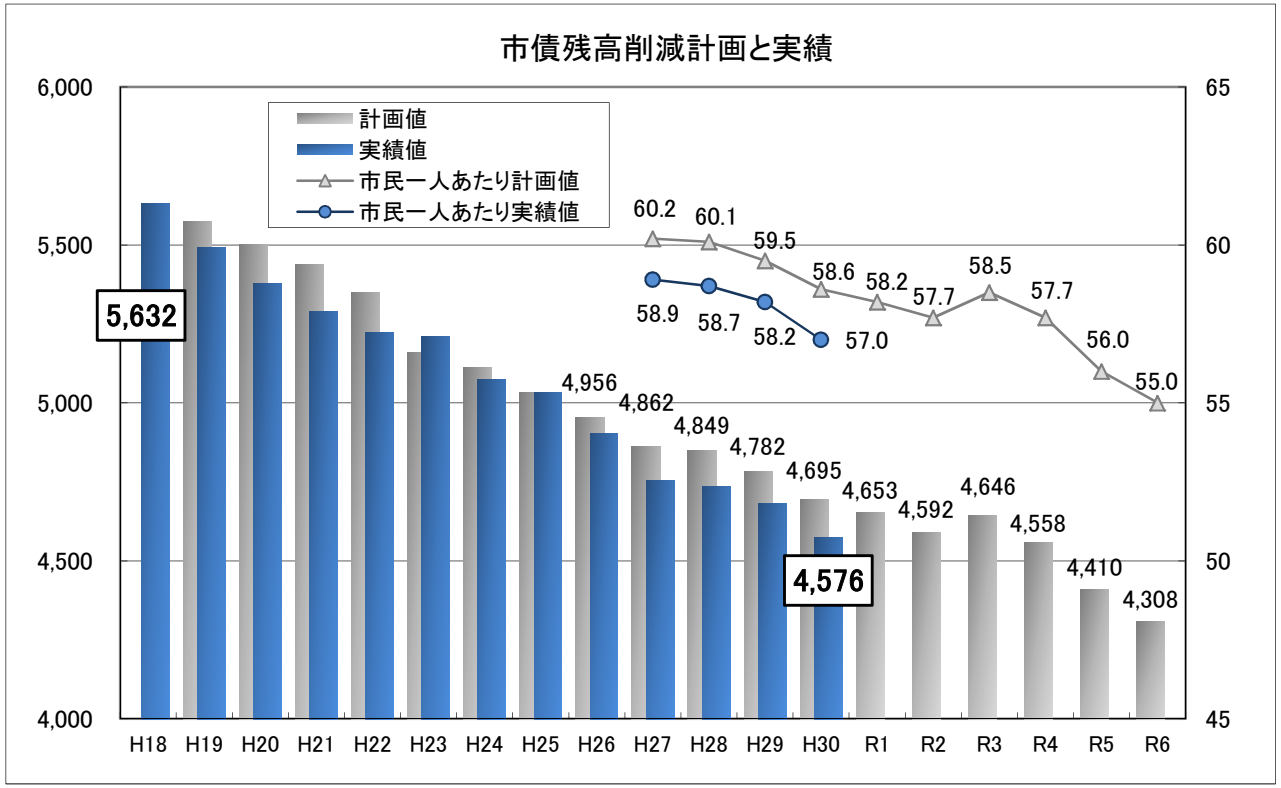
- 一般廃棄物処理施設整備事業基金残高は、新清掃工場建設に対する財源確保のための積立てにより前年度比40億円の増
- 商工業振興施設整備基金残高は、新・産業集積エリア整備事業の工場用地分譲にかかる土地売払収入相当額を積立てたことにより前年度比35億円の増
- 市民一人あたりの基金残高は5.7万円となり、前年度比6千円の増

※類似都市平均は3.8万円、政令指定都市平均は3.8万円

市債残高の状況

浜松市

市債残高　4,576億円（前年度比106億円の減）



- 平成30年度末市債残高は4,576億円
  市民一人あたりの市債残高は57.0万円
- 中期財政計画の平成30年度計画値
  58.6万円以下を達成

【一人あたり市債残高】

順位	市　名	残高（万円）
1	相模原市	50.5
2	さいたま市	53.5
3	浜松市	57.0
政令指定都市平均		100.9

※H30年度末の全会計（R1.9月時点速報値）
※人口はH31年3月末日時点の住民登録者数

- 市債残高は平成18年度から平成30年度までの12年間で1,056億円(18.8%)の減
- 市民一人あたりの市債残高は政令指定都市の中で3番目に少ない
- 中期財政計画（H27年度～H36年度）の目標は、一人あたり市債残高を令和6年度末までに55.0万円/人以下

公営企業会計決算の状況

浜松市

全事業にて、純利益を確保。下水道事業では、西遠処理区において、平成30年4月からコンセッション方式で運営

下水道事業　～日本初のコンセッション方式～

浜松市内最大処理区である西遠処理区において、処理場・ポンプ場に運営権を設定し、浜松ウォーターシンフォニー株式会社が20年にわたり、対象施設の維持管理と機械電気設備の改築更新等を実施。20年間で約86億円のコスト縮減効果が見込まれる。

※浜松ウォーターシンフォニー株式会社：
ヴェオリア、JFEエンジ、オリックス、東急建設、須山建設グループが設立した特別目的会社

コンセッション方式とは

- 利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営権を民間事業者に設定する方式
- 民間事業者による安定的で自由度の高い運営を可能とすることにより、利用者ニーズを反映した質の高いサービスを提供

【30年度 損益収支】

（単位：億円）

区　分	病院事業	水道事業	下水道事業
総収益	79.3	119.6	211.7
総費用	72.4	113.2	189.8
純利益	6.9	6.4	21.9
未処分利益剰余金	29.6	19.6	29.3

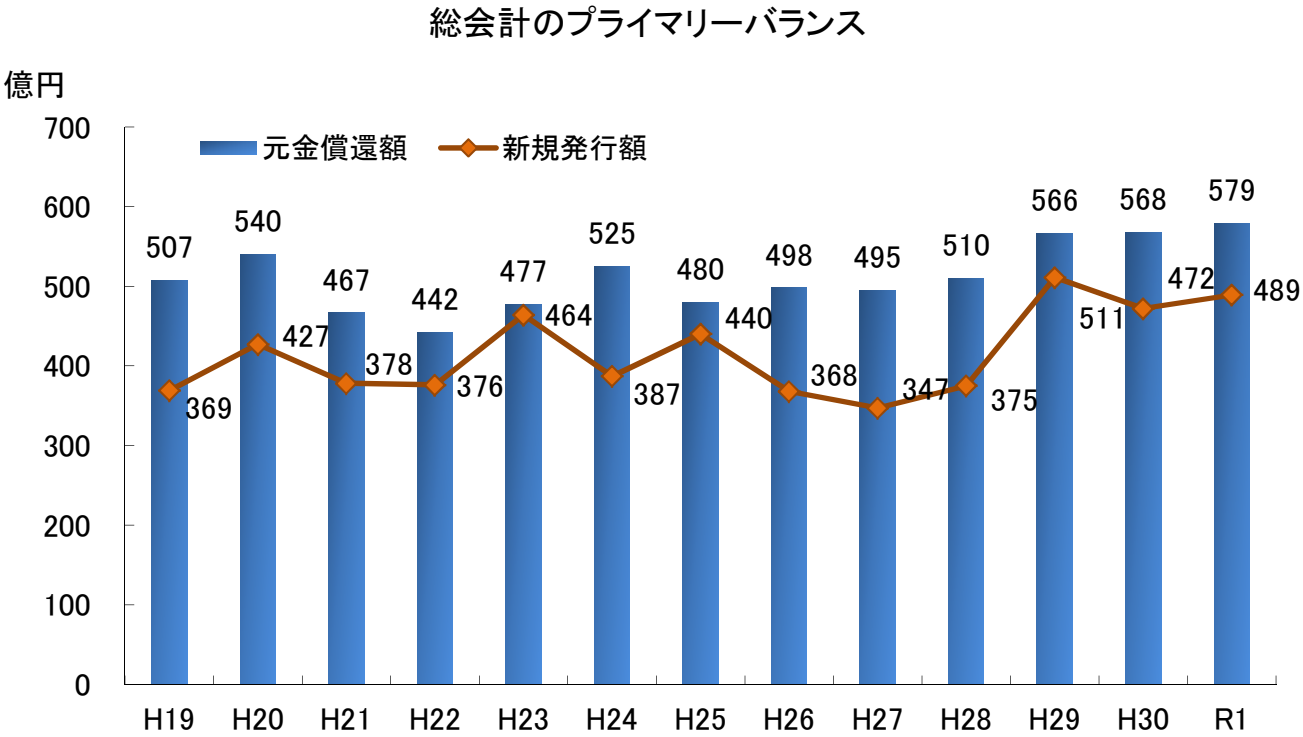
4 市債発行方針

- 市債管理方針
- 減債基金の積立
- 浜松市の格付け
- 令和元年度 市場公募債発行概要

市債管理方針

浜松市

元金ベースのプライマリーバランス黒字を維持



※												
PB	138	113	89	66	13	138	40	130	148	135	55	88	90

※H30までは実績値、R1は当初予算ベース

※PB（プライマリーバランス）

市債の借入額と償還額（元金と利子）とを比較した基礎的財政収支。本市ではより厳しい条件である元金償還と比較

- 臨時財政対策債を含めた全ての市債の合計で、元金ベースのプライマリーバランス黒字を維持
- 将来の負担軽減、リスクの排除により、中長期にわたる健全財政を維持

＜発行ルール＞

・中期財政計画に基づく市債の発行抑制

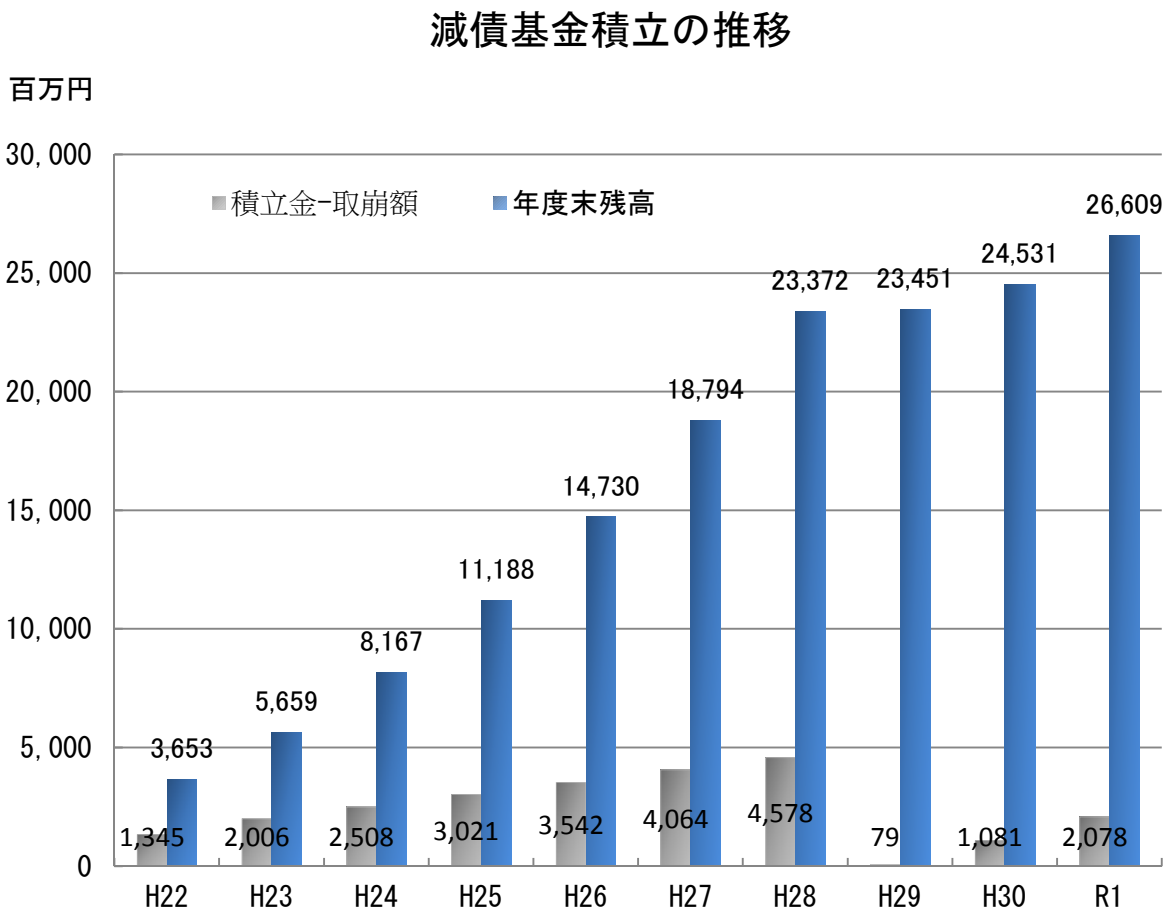
・元金償還額未満の発行による市債残高の削減

＜償還ルール＞

・償還ペースの維持・短縮

減債基金の積立

毎年発行額の1/20以上を減債基金に積立（据置なし）



※H30年度までは実績、R1年度は当初予算ベース

・実質公債費比率の算出基準よりも前倒しの積立（1/20以上）を実施

・平成29年度から、市場公募債の満期一括償還のため、毎年50億円を取崩し

減債基金　年度別一覧　（単位：百万円）

年度	元金積立	利子積立	取　崩　額	年度末残高
H22	1,540	5	△ 200	3,653
H23	2,000	6	0	5,659
H24	2,500	8	0	8,167
H25	3,000	21	0	11,188
H26	3,500	42	0	14,730
H27	4,000	64	0	18,794
H28	4,500	78	0	23,372
H29	5,000	79	△ 5,000	23,451
H30	6,000	80	△ 5,000	24,531
R1	7,000	78	△ 5,000	26,609

浜松市の格付け

浜松市

財政計画の質と財政目標の確実な達成を高く評価

ムーディーズ・ジャパン株式会社

A 1

（エーワン）

[アウトルック：安定的]

BCA：a2

依頼格付取得地方自治体一覧（2017年度スコア）

都市名 ※クレジット・オピニオン公表日	浜松市 H30.10.12	静岡県 H31.1.24	札幌市 H31.5.15	横浜市 H31.3.29	名古屋市 H30.12.14	京都市 H31.6.14	大阪市 H31.3.7	堺市 H30.9.21	福岡市 H31.2.6
発行体格付け	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1	A1
BCA	a2	a2	a2	a3	a3	a3	a3	a2	a2
推定BCAスコア	a3	a2	a3	a3	a3	baa1	a3	a3	a2
推定個別リスクスコア	2.62	2.43	2.77	2.77	3.13	3.56	3.28	2.56	2.21
（浜松市との差）	(−)	△ 0.19	0.15	0.15	0.51	0.94	0.66	△ 0.06	△ 0.41
本市の格付けを支えるプラス要因									
財政実績と債務状況	0.68	1.05	0.83	0.83	0.83	0.98	0.98	0.90	0.83
（浜松市との差）	(−)	0.37	0.15	0.15	0.15	0.30	0.30	0.22	0.15
行財政運営の状況	0.3	0.3	0.3	0.3	1.5	1.5	1.5	0.3	0.3
（浜松市との差）	(−)	0.00	0.00	0.00	1.20	1.20	1.20	0.00	0.00

※数値の低いほうが良好な状況を示す。

＜格付を支える要因＞

○優れた財政規律に支えられた高い財政パフォーマンス

○堅実な財政運営の実績に示される強固な行財政運営

○国内比較で、最も低い債務負担比率

（純直接・保証債務/経常的歳入※ が100%を下回る唯一の国内格付先団体）

※ムーディーズ・ジャパン㈱の調査分析に基づく独自の定義による格付評価指標

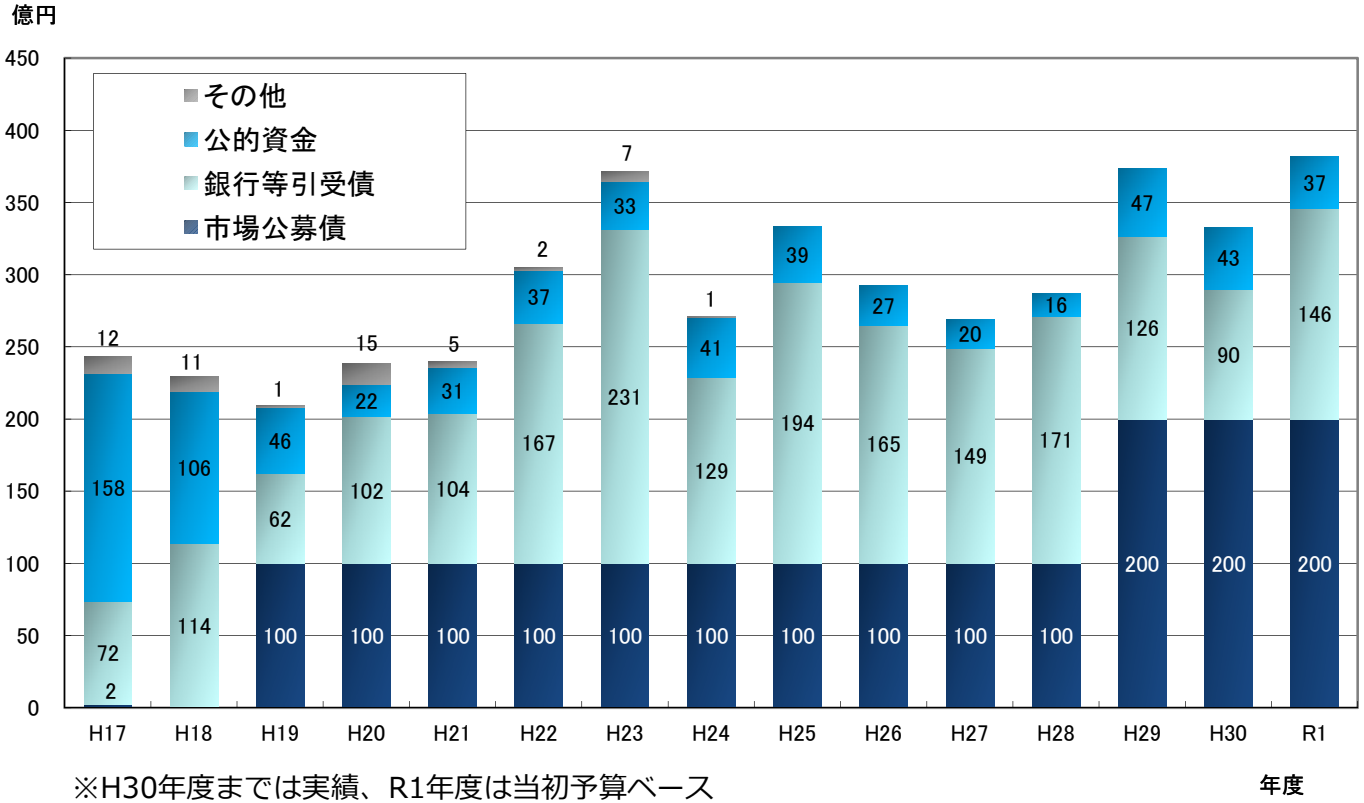
令和元年度 市場公募債発行概要

浜松市

発行額：150～200億円予定（10年債）

発行日：令和2年1月下旬予定

市債発行額の推移と計画（普通会計）



※H30年度までは実績、R1年度は当初予算ベース

【浜松市債引受シンジケート団】

銀行団	㈱静岡銀行
	㈱みずほ銀行
	㈱三井住友銀行
	㈱新生銀行
	㈱あおぞら銀行
	浜松磐田信用金庫
	遠州信用金庫
証券団	みずほ証券㈱
	野村證券㈱
	大和証券㈱
	SMBC日興証券㈱
	三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱
	東海東京証券㈱
	岡三証券㈱
	㈱SBI証券
	ゴールドマン・サックス証券㈱
	バークレイズ証券㈱
	しんきん証券㈱

浜松市
HAMAMATSU CITY

浜松市　財務部　財政課
〒430-8652　浜松市中区元城町103-2
TEL　053-457-2274
FAX　050-3730-0119
e-mail　zaisek@city.hamamatsu.shizuoka.jp
URL https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/